

「ありがとう」を言動で示す

新2，3年生の皆さん、進級おめでとうございます。本日から令和7年度が始まります。今年度も、文武両道の精神で、授業や部活動・クラブ活動等に取り組み、充実した1年間にしていきましょう。皆さんの成長を楽しみにしています。

さて、ここでは「ありがとう」という言葉について考えていきたいと思います。熊谷市内の全ての小中学校が取り組んでいる「熊谷の子どもたちは、これができます!」「4つの実践」の1つに「『ありがとう』『ごめんなさい』と言う」とあります。ですから、皆さんはずっと「ありがとう」という言葉を大切にしてきたのだと思います。

では、そんな皆さんに質問です。「暗い」の反対は「明るい」、「速い」の反対は「遅い」、では、「ありがたい」の反対は何でしょうか？答えは「当たり前」という言葉なのだという話を聞いたことがあります。「ありがたい」を漢字で書くと「有り難い」です。つまり「有ることが難しい」・・・「めったにない」とでも置きかえられますね。だから「有り難い」の反対は「当たり前」なのだそうです。例えば、お家の人のご飯をつくること、洗濯することなどが当たり前であると思っていると「有り難う」という言葉は出てきません。同じように、友達からの親切や優しさも当たり前と捉えてしまえば、「有り難う」という気持ちにはならないでしょう。皆さんは、身の回りの「当たり前」を見直すことのできる年齢になっています。心よりの「感謝」「ありがとう」が表現できるはずなのです。

約1ヶ月前の三送会では、皆さんからの「感謝」の気持ちのこもった出し物がありました。そして、3年生から在校生等へのメッセージも「感謝」あふれる内容だったと思います。たのが「心より感謝」という書道アートでした。ステージ壁面いっぱい大きさです。3年生の先生に聞くと、進路が早めに決まっていた生徒たちが自主的にチームをつくり、PCでデザインをする生徒、文字を書く生徒、絵を描く生徒など、それぞれの特技を生かしながら完成させたのだといいます。閉会セレモニーでは「思い出のスライドショー」がありました。その最後に、3年生の学年主任・久保先生からのメッセージが流されました。「一昨年、昨年と同じように一生懸命この三送会を企画・運営し、『生徒自ら創り上げる』行事の大変さを知っている3年生ですから、この温かいおもてなし、心づかいにしっかりと感謝の気持ちを示してほしいと思います。『感謝の気持ち』は、『ありがとう』と口にするだけではなく、『ありがとう』という思いを、その心を、言動で示す必要があると思います。」このようなメッセージでした。



富士見中学校の皆さんならできるはずです。「ありがとう」という言葉を表現するだけでなく、「ありがとう」という思いを、その心を、言動で示すことができるはずです。

この学校に「ありがとう」が溢れ、全校生徒・職員の絆がさらに深まることを期待して、令和7年度前期始業式の式辞とします。